

アジア研究教育ユニット 令和2年度教育研究報告書

事業課題名	International Development Assistance Policy 授業補助 (謝金)
代表者名	経済学研究科 ラランディソン ツイラヴ
事業概要 (600 字程度)	<p>経済学研究科の国際プログラム「東アジア持続的経済発展研究コース」では、国際開発援助科目を開講しており、ゲストスピーカーの方をお招きし講義を提供してきた。本科目の目的は、参加者に多様な国際開発援助の実践を理解し、現実の国際開発問題に関する知識を身につけてもらうことにある。そのため、国際開発援助の役割と体制の展開、日本のODAの実績と評価の講義を行った。本講義に参加することにより、対象留学生在が理論概念への深い洞察力のみならず、開発援助の実行力を高めることが出来た。</p> <p>今年度はオンラインに切り替えて提供を継続出来た。1回の講義は2コマ分(2×90分)の内容を実施し、そのうちの6回分はJICA、並びに企業やNGOに所属する経験豊富な専門家に担当していただき、貴重な体験談を聴くことができた。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>大半の学生にとって、国際援助について学ぶのは初めてであった。最初の授業はJICAからのもので、日本のODAを事例に開発援助の現状と課題についての導入として適切なものだった。また、錯綜する利害ゆえ開発プロジェクトの実施がいかに複雑で困難を伴うものであるかを学生が理解する機会を提供する内容だった。次の二つの授業は伊藤忠総研および豊田通商によるもので、両社は、それぞれアフリカと中南米での官民連携/商社の事業を事例に、総合商社の立場から開発に対する異なる視点が提示された。両社担当者からのメッセージは経済学や経営管理を学ぶ学生には理解しやすいものだった。最後の二つの授業は東南アジアとアフリカでそれぞれ活動する日本のNGOからのもので、開発プロジェクトの現場で引き起こされてきた社会的・政治的・環境的な諸問題を踏まえた開発への批判的見解が提示された。</p> <p>受講した学生は11カ国から来ていて、専門が経済学、文学、農学など多様なバックグラウンドを持っていた。こうした多様性により、学生間で、あるいは学生と講師との間で興味深い意見交換が可能となった。学生達は当初こそ授業の内容を理解するのに難しさを感じていたが、各授業終了後の学生達からのフィードバックを見る限り、本授業科目が彼らにとって有意義であったことがわかる。</p>